

9月定例会 町政を問う 一般質問

Q 今後の国道54号対策は
A 54号活性化プランを実行



長島 正一 議員

尾道松江線の開通後は交通量の激減が予測され、町の将来を左右する重要課題ですが、影響をどのように分析していますか。

また、「国道54号を生かした魅力あるイベント」「里山資源を生かした産業活性化の具体的戦略」「沿線自治体や関係者との連携協議の進展」を問う。



山崎 英樹町長

路線開通後の交通量は5割の減少が予測され、道の駅などの地域経済や住民の生活・雇用に大きな影響がありますので、今定例会に「54号活性化プラン」を実行するための補正予算を計上しています。

「産業活性化プラン」は商工会やJ.Aを中心に協議・研究していますし、観光産業は森林セラピーの充実を図り、町内全体へ波及効果が及ぶようにします。「沿線自治体などとの連携」は、公共交通の確保や活性化について協議を重ねています。

Q 地場特産物に誇りを
A 支援と育成に努める

長島 議員

当町には、米をはじめとした農産物や、もち・味噌・そばを中心とした加工品など、歴史風土に根差した自慢できるものが多くあります。一過性でなく長続きする産業の育成が大切ではないか。

山崎 町長

歴史・風土に根差し、多くの人の手で育まれた物こそ本町にふさわしいものがあり、これらを伸ばすことが産業振興の基本です。必要なところへは支援し、また育成に努めていきます。



Q 米価暴落への対応は
A 資金、販売対応に努力

長島 議員

大幅な米価引き下げは、農家の水田経営継続に大きな心理的影響をもたらしつつありますが、実情をどの様に感じているか。また、米価の損益分岐点はいくらですか。

このような状況下において安心して農業を続けるためには、資金対策や過度な値崩れを起こさない努力が必要で、行政として何ができるのか、町の施策を問う。

山崎 町長

想定を越した米価下落を大変憂慮しています。本年産米の精算価格は、不安定



要素があり、一概に言えませんが、概算金5、800円に戸別所得補償などを加味して検討すると、30kg当たり約7、000円ほどになろうかと思えます。損益分岐点は、15ha規模の集落営農法人を想定したとき、6、100円程度です。農家が資金ショートしないよう対策を考えます。

飯南米の販売については担当者置き適正な値段で売るようPRし、また、精米所を設置し、飯南高原米のブランド化に努めます。

Q 生活習慣病対策は
A 受診率65%を目指して

小野 覚 議員

生活習慣病を早期に発見し、予防するためには定期検診は欠かせません。平成21年の受診率は46・1%、その内、指導対象者は11・9%でした。この数字をどう評価しているか。健診の受診率アップが医療費の抑制につながるがどう対策するのか。受診者の糖尿病とその予備軍が県下1位、女性のがんの発症率も高くなっています。その原因をどう認識しているか。



山崎 英樹町長

本町の健診の目標は、平成21年度46%、実施が46・1%です。指導対象者の県平均は17・9%で、この数値が低いほど良い状況ということ。実施計画では平成24年の受診率の目標は65%としており、これを目指して取り組みます。

受診率向上対策は、健康教室での呼びかけ、広報誌でのお知らせなどで行い、検診にいけなかった人に対し、飯南病院で再受診が受けられるようにしています。糖尿病の発生率が高いのは食習慣とアルコール摂取によると考えられます。

小児期の生活習慣病は本町でも同じような傾向にあります。食生活の改善に一層取り組んでいます。

Q 集中豪雨対策は
A 地域防災活動が重要

長島 議員

庄原市の山間部を襲った集中豪雨で、集落は土石流と流木により壊滅状態です。中心地から離れた地区では課題が多々ありますが、災害時には正確な情報に基づく適切な指示が重要です。

そこで、集中豪雨対策が重視される中、「ハザードマップの活用」「情報収集と伝達の手段」「事前の備え」について考えを問う。

山崎 町長

平素からハザードマップを活用し、災害対応の意識を高める取り組みを行います。また、災害時には情報の収集と伝達が大切であり、県の防災システムや気象情報



庄原市の集中豪雨

報の活用により判断します。

事前の備えについては、防災訓練を重ね、避難場所の検証とともに地域単位の防災活動が重要であり、住民への啓発活動を進めます。

